

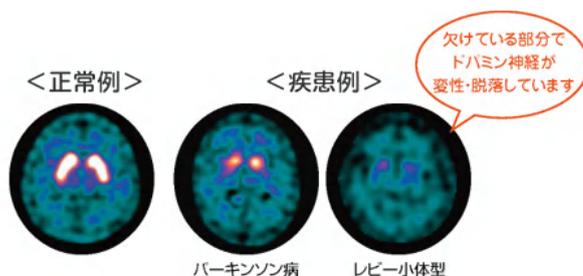
ドパミントランスポーターシンチグラフィ

○ 核医学検査(RI検査)とは？

核医学検査(RI検査)とは、ガンマ線という放射線を放出する検査薬を注射し、臓器や病変部に取り込まれた検査薬から放出されるガンマ線をカメラで撮影し、体内の情報を得る検査です。投与される検査薬から放出される放射線は極めて微量で、副作用の心配はありません。また、検査薬は速やかに自然な排泄作用によって、体から除去されます。

○ ドパミントランスポーターシンチグラフィ(ダツスキヤン)とは？

脳内の黒質から線条体に向かう神経経路(ドパミン神経)に存在するドパミントランスポーターを画像化し、ドパミン神経の変性・脱落の程度を評価する検査です。パーキンソン症候群、レビー小体型認知症におけるドパミン神経の変性・脱落の有無を調べるのが目的です。それによってアルツハイマー病などとの鑑別診断に有効です。



○ 検査前と検査終了後の注意点は？

食事や飲み物の制限はありません。
検査前後も普段どおりお過ごし下さい。

検査の方法と流れ

1. 点滴から検査薬を静脈注射します。
2. 検査薬が脳に集まるまで約3時間待ちます。
この間はご自由にお過ごし下さい。
3. 検査ベッドに休み、頭部を軽く固定します。撮影の間は、リラックスして動かないようにしましょう。



検査時間は約30分です。

* アルコールに強い反応を示す方は申し出て下さい。

(検査薬に微量のアルコール成分が含まれる為)

* 妊娠中、妊娠の可能性のある女性、授乳中や乳幼児がいる方はあらかじめ医師にお知らせ下さい。

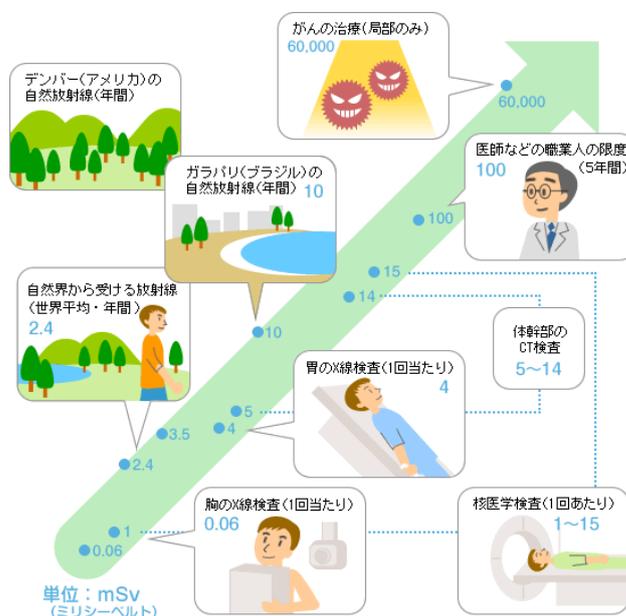
【ドパミントランスポートシンチグラフィ Q & A】

Q. RI 検査薬の副作用はないの？

A. どんなお薬にも副作用はつきものですが、ドパミントランスポートシンチグラフィに 使われる検査薬の量は 2.25cc とわずかな量であり、国内第Ⅲ相試験においては副作用が現れることはありませんでした。海外臨床試験 1064 例においては 40 例(3.8%)に 副作用の報告があります。うちわけは、頭痛 15 例(1.4%)、悪心 8 例(0.8%)、局所反応(0.1%)そ う痒、及び紅斑(頻度不明)とのことです。当院がこれまで行ったドパミン トランスポ ータシンチグラフィ検査 78 件(2020 年 9 月末時点)すべてにおいて、副作用は発生しており ません。万が一副作用が起こってしまった場合、迅速かつ最善の処置を 行いますので安 心して検査を受けてください。

Q 被ばくはどれだけするの？

A 核医学検査では検査の種類によって 1～15 ミリシーベルトの被ばくが生じます。 ド パミントランスポートシンチグラフィでは約 2 ミリシーベルト程度の被ばくとなります。 一 方、病院で受ける検査による被ばく以外にも、下の図のように普段生活しているだけ でも被ばくが生じています。1 年間普通に生活しても、自然界から受ける被ばくが 約 2.4 ミリシーベルトとなっています。この被ばく線量で、身体に影響が出る事は ありませ んので安心して検査を受けられて下さい。



参考資料：日本メジフィジックス株式会社ホームページ
核医学検査の安全性

<https://www.nmp.co.jp/member/kakuigaku/safe.html>